



## 北アルプス爺ヶ岳周辺の高山植物と植生

爺ヶ岳は、南峰、中峰、北峰の3峰からなり、大町市内などからも3峰が並ぶ特徴的な山の形をよく見ることができます。爺ヶ岳は、周辺の鹿島槍ヶ岳、針ノ木岳に比べると、標高が低く、とがったピークなどもないため、やや目立たない山容の山かもしれません。しかし、最近の研究で、爺ヶ岳は160～170万年前の火山で、その火山活動でつくられたカルデラがほぼ90°回転隆起してできた山、というなんともびっくりな成り立ちをもっていることが明らかにされました。火山活動でできた山ということで、爺ヶ岳の地質には蛇紋岩や石灰岩など特異的な高山植物相をもたらす岩石がなく、また山頂標高の低さや積雪量の違いなどもあいまって、同じ後立山連峰の白馬岳などに比べると、高山植物の種多様性は低くなっています。その反面、爺ヶ岳は、後立山連峰の山地帯から高山帯にいたる植

生の垂直分布の典型をよく見ることができる特徴があります。扇沢の登山口から標高約2,500mにある森林限界(写真)までは、ブナなどの落葉広葉樹林、シラビソ、オオシラビソなどの常緑針葉高木林、ダケカンバ高木林の順に移り変わっていき、森林限界を通り過ぎると、いきなり目の前にお花畑(初夏には雪渓!)が現れます。この森林限界は、標高だけでなく山の稜線付近で風が集束して強くなり森林限界が押し下げられる“山頂現象”も加わり、ちょうど種池山荘付近から鹿島槍ヶ岳への縦走路ではっきりと見ることができます。爺ヶ岳では、森林限界より高い、高山帯の部分はハイマツに広く覆われており、その周辺や雪だまりに風衝草原やチングルマなどの咲く雪田草原などが点在しており、これら一帯がライチョウの生息環境となっています。(尾関 雅章/自然環境部)



写真 爺ヶ岳(南峰・中峰)の空中写真(2012年10月19日撮影)。写真下方の赤い屋根の建物は種池山荘。森林限界(赤線)より上部には、高山常緑針葉低木林のハイマツ林(緑色部分)が広がり、その周辺やすき間に高山風衝草原、高山荒原、広葉草原がみられる。